

第 2 回阿賀野市道の駅整備検討委員会 会議録

開催日時	平成 29 年 2 月 15 日(水曜日) 午前 10 時 00 分～11 時 45 分
開催場所	阿賀野市水原公民館 3 階 大会議室
出席委員 (11 名)	池田委員長、井上副委員長、波多野委員、大澤委員、五十嵐委員、小林委員、佐藤委員、渡邊委員、百都委員、松永委員、高橋委員
欠席委員 (2 名)	稲毛委員、加藤委員
事務局	土岐産業建設部長、 総務部 市長政策課 菅原課長補佐、総務課 辻係長 民生部 生涯学習課 鈴木課長補佐、 産業建設部 農林課 星野課長補佐、商工観光課 鈴木課長補佐、建設課 佐藤課長、松崎課長補佐、加藤係長、小林主任、山崎主事
会議事項	(1) 開会 (2) 「道の駅」基本構想(素案)について (3) 質疑応答 (4) その他 (5) 閉会

「道の駅」基本構想（素案）について

委員長 皆様おはようございます。

「道の駅」基本構想（素案）がまとまったということで、第2回目の検討委員会を開会します。

基本構想を説明する前に、参考となると思われますので事務局から現地視察の報告をお願いします。

事務局 **道の駅の現地視察として、群馬県の「道の駅」白沢と、「道の駅」川場田園プラザの概要報告**

委員長 有難うございました。

川場とはまったく規模が違います。我々が計画しているものの3倍以上の面積があるのでそのままトレースできるというわけではないかと思いますが、“こころ”の部分については皆様に伝わったのではないかと思います。

そういったことを踏まえまして本日の議論に入りたいと思います。

事務局から基本構想（素案）の説明をいただいたうえでご意見ご議論を深めていきたいと思いますが、目次をご覧いただくと『6.「道の駅」における導入機能の整備方針』までが重要なポイントだと思われますので、説明いただいて、項目ごとにご意見をお伺いできればと思います。それでは、事務局お願いします。

(説明)

事務局 ○第1回検討委員会の主な意見

○基本構想（素案）

一括して事務局が資料に基づき説明

委員長 有難うございました。

今回の議論を踏まえて市民の方々にパブリックコメントという手続きに入りますのでなるべく詳しく確認しながらご意見あるいはご議論賜りたいと思います。

(質疑応答)

■1. はじめに (P1)

質疑なし

■2. 「道の駅」の概要 (P2~P3)

【休憩機能】

委員 「24時間無料で利用できる駐車場、トイレ」となってるが、利用しやすいことを表現していると思うが「無料」という表現はどうか？「利用しやすい駐車場、トイレ」とどめておいた方が良いのでは。

事務局 「利用しやすいということ」が考え方としてあるので、「無料」という表現は考えていきたい。

委員長 国の基準として、「24時間」で「無料」は前提条件となっているのでは。

事務局 その通り。

- 委員長 休憩機能は「駐車場」と「トイレ」だけなのか。そもそもの休憩として他に施設があるのか。
- 事務局 「休憩機能」の言葉の捕らえ方になるかと思うが、「多目的広場」とか、そういうものについても、広い意味では「休憩機能」もあると考えている。基本的なものとしては、「駐車場」と「トイレ」となるが、連携して有機的に繋がって「休憩機能」と、概念的にそういう風に考えている。
- 委員長 これは、「道の駅」の機能ということで、国が例示として出しているもの、どんな場所でも休憩しようと思えば休憩できるが、このように記されていることでよいか。
- 事務局 その通り。

■3. 阿賀野市における「道の駅」整備の目的と期待される効果（P3～P4）

- 委員長 期待される効果の中の、地域防災面からの効果ということで、広域的な防災を担える一効果となると思うが、具体的に新潟市や他の都市などと防災協定などを結んでいることはあるか。
- 事務局 県内においては、原子力災害の場合、長岡市の避難経路所として、市立図書館が担っている。
- 委員長 道の駅が整備されれば、阿賀野市の玄関口として、新潟市からのアクセスもよく、防災効果は大きいと考えられる。地震、特に新潟市は大きな津波被害が想定されるため、この場所でこれだけの規模であることは非常に大きい。今後の対応として新潟市とも協定等が結ばればよいと思う。
- 委員 東日本大震災等において、「道の駅」というのが防災拠点として災害物資の受け取り地点となったり、自衛隊の前線基地となったりと、最近では、そのような重要な使われ方もされている。市においても、地域の防災計画の中に位置づけてもらいたい。
- 事務局 今後、阿賀野市防災計画に盛り込む予定である。
- 委員 災害時だけではなく、普段でも、防災というものを学べる場（防災教育）というものを、これから考えていただきたい。また、避難経路所に市立図書館が指定されているということだが、今後は「道の駅」が代わりになることを期待している。避難の場所となることは大事であるが、近年、特に言われているのが、「高齢者と障がい者」がどのようなところに避難するか、その方々が大きな体育館に、何日もいることは非常に難しく、その方々の避難場所について全国的に注目されている。そのような小さなことだが、どこにも無いような施設をつくり、話題にさせていただきたいと思う。

■4. 整備位置（P5～P6）

- 委員 P5（1）の1段落目と2段落目の関係について、他の記述はここであるという記述であるが、「情報発信機能及びにぎわい・交流機能を効果的に発揮できる場所」というのが、意味が良くわからない。表現の問題かもしれないが・・・。
- 事務局 交通量が多い場所といった中で、情報発信の機能は効果的ではないかと考えている。

委員長 文脈として、1段落目と2段落目は、連続しているのでは。
事務局 そのとおり。
委員長 文章の修正を考えていただきたい。

■5. 整備コンセプト (P7)

副委員長 ざっくりした感じなので、頭の中に入りきらない感じがある。基本構想は、方針なのでこれで良いと思うが、もう少し具体的なほうがよいのでは。
先ほど、ここが防災拠点といわれているが、バイパスの高さがどのくらいになるのか。安野川が切れた場合、京ヶ瀬まで水が来ると思う。水の高さを抑えているのが堤防なので、ある程度の高さがないと防災拠点にもならないと思う。

事務局 今後、整備計画を策定していく中で、もう少し色（特徴）が出てくると思う。防災については、P12に配置方針にも述べているが、浸水想定も考慮している。

委員 この次の段階でどんな感じにするのが大事ではないか。コンセプトについては、このままで良いと思う。

委員 個別の意見としては、現段階では意見は特にない。

委員 私も川場に視察に行かせてもらったが、規模が大きすぎてお金がかかっている施設という印象を受けた。そもそも、阿賀野の道の駅の予算がわからないが、詰め込みすぎると予算が係りすぎる。「何を優先的に考えるのか、メインをはっきり重んずるべき。」だと思う。

委員 基本的に皆さんと同意見であるが、整備コンセプトのような「道の駅」を目指す必要があるのではないかと思う。

委員 今の段階では、問題ないと思う。今後、細かいところで話し合う必要がある。基本的に、この3つの方針に重点をおいて進めると思う。一般的であるが、その中で、新潟一、日本一となるような何かに重点をおいて進めるべきなのかが重要だと思う。

委員 川場の「道の駅」に行って、月岡のわくわく広場のイメージと同じと感じた。物品だけを売るのではなく、「体験や遊ばせることを重要視」していると感じた。川場は大きいですが、基本的にはここと同じ構想で、事業所や売り場は売れなければ変わっている。他の委員の意見で「イベントがあると楽しい」とおっしゃっていた。イベントを重視して、実演販売や、陶芸などの体験コーナーがあった。「何かを観て楽しむ・参加して楽しむ」が今は主流となっており、「体験や遊ばせることが重要視」されていると感じた。

川場については、東京都の世田谷が支援している。あと開業後の40年間の紆余曲折の歴史の中で、苦労してきた結果が現在の状況となっている。経営者の力、個性が大きく影響していると感じた。冬場は徹底的に省力化を図っている。川場のようにミルク工房からスタートするように、「小さいところからスタートすること」も良いのではないか。コンセプトや3つの基本方針は、よくまとめていると思う。特徴を出してもらえれば。特に、防災の色を出していければよいと思う。

委員 整備コンセプトや3つの基本方針について、詰め込みすぎかなという印象を受けた。中途半端にならないよう、基本方針1を1番に考えてもらいたい。「癒し

の空間」があるところに人が集まって、人が集まることで、賑わいが生まれるのでは。

■6. 「道の駅」における導入機能の整備方針（P8～P10）

委員 休憩機能として、最初に温泉、足湯など温浴設備とかはどうか。

事務局 具体的な施設についてはこれからになるが、考え方としては、小さな施設を整備して大きくすることや、既存施設の活用などが考えられるが、いずれにしても今後の整備計画で検討していきたい。

委員 P10の防災機能の表の部分であるが、多目的広場を「支援物資の中継・提供」に活用すると記載してあるが、多目的広場には、建物がないのでは。

事務局 場合によって、広場を活用したり、地域振興施設などであったり考えていく必要がある。

■7. 「道の駅」の施設配置方針について（P11～P13）

委員長 ユニバーサルデザインの導入とあるが、市の方でユニバーサルデザイン等の整備要綱はあるか。

事務局 市ではないが、国のガイドラインがあるので、それを準用していきたい。

■8. 「道の駅」の整備・管理運営手法について（P14～P15）

質疑なし

■9. 「道の駅」活性化方策について（P16）

委員 活性化方策は、一番大切な部分であると考えている。今後の整備計画で検討すると思うが、建物だけでなく、むしろこちらの部分を重要視して考えていただきたい。

ここから情報発信をして、阿賀野市を知ってもらうことは良いが、「道の駅」だけではなく、集まった人をどのように市街地のほうへ誘導していくかが重要であるとする。

委員長 今後、具体的に市街地のほうに誘導していくのかということと、「道の駅」だけでなく、いかに市内に誘導していくのかということが必要と考えられる。この部分は、文章的に記載が無いと思うので、お願いしたい。

事務局 今後の整備計画の中で検討していきたい。

委員長 市への誘導は、活性化方策の中に記載した方がよい。

■10. 今後の予定（P17）

質疑なし

■まとめ

委員長 行政が携わる計画については、よくわかりにくいと市民の方から言われる。

網羅的になるのは、この段階では漏れがないようにするものでやむを得ないところもある。この整備コンセプトを基に具体的に何をしていくのか、どこに重

点を置くのか今後、組み立てられる。これから先の土台、発射台という形になるのが、基本構想である。基本的にはこの方向性で良い。

今回の議論が一番の中核になる。皆様から様々な意見をいただいた。方針、コンセプトなど全体を通して大きくは組み立てを変える意見はなかったと認識している。今後、具体的なことについて、引き続き皆様と議論しながら考えていきたい。この組み立てで始めていただきたい。若干の修正については、委員長一任で対応させていただき、今後、控えているパブリックコメントを行う前までに事務局から皆様にご報告したいと考えている。

その様な進め方で良いか。

委員一同了承。

その他

特になし

(終了)

■検討委員会の様子

